

**「さらば、コンソール作業」**  
**ChatOpsによるAWS運用自動化ツール**  
**作成の裏側を聴いてみる**

# 目次

## 01 – スピーカー紹介

## 02 – オフラインセッションの振り返り

## 03 – ツール開発の経緯

## 04 – 開発で苦労したこと

社外に取らばったログインアカウントをさらばAWSコンソール!

## 運用自動化ツール for AWS

AWSへの操作や通知の受け取りをSlack上で完結し、運用作業の削減を無料で実現する運用自動化ツール(ChatOps)です。



AWS基盤担当者

定形業務が多くて  
IT企画や業務改善に手が伸ばせないよ...

IAMユーザの作成

IAMユーザの削除

AWSアカウント作成

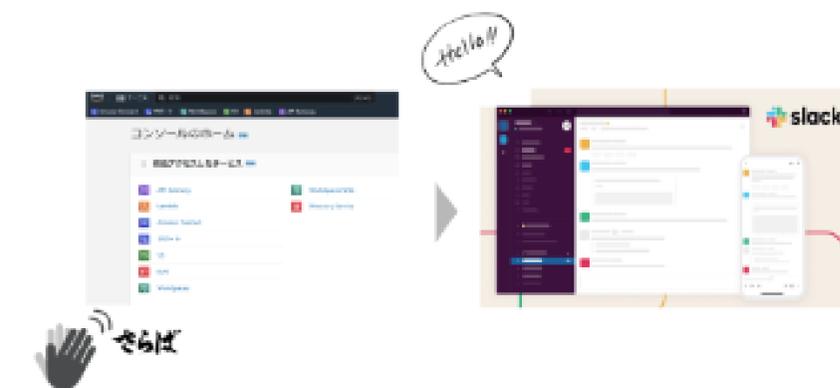
Cloud9の環境構築

Slack上で各サービス毎の通知選択

パブリック公開のS3バケットの検知

### 運用自動化ツール for AWSの詳細

さらば、コンソール作業、  
Hello!! Slack Command!!



社内システムの運用管理を担当する皆様は、日々多くの業務に追われており、特に定型作業に多くの時間を取られているのではないのでしょうか？

定型作業ばかり対応していて、本来優先すべき重要度の高いIT企画や業務改善に手が伸ばせないといったお悩みはありませんか？

わたしたちは、業務を省くことで生産性の高い業務に集中できるようにChatOpsツールを作り、導入・利用していただくことで、社内の皆様を定型作業から解放し、アジリティ向上のお手伝いをします。

# スピーカー紹介



## エーピーコミュニケーションズ

インフラを中心に  
SESやシステム開発の請負、  
エンジニアに向けたオリジナル  
プロダクト開発を担う



## 坂口拓生

主にAWSを用いた案件での  
設計/開発/技術協力を担当。  
2024 Japan AWS All  
Certifications Engineers



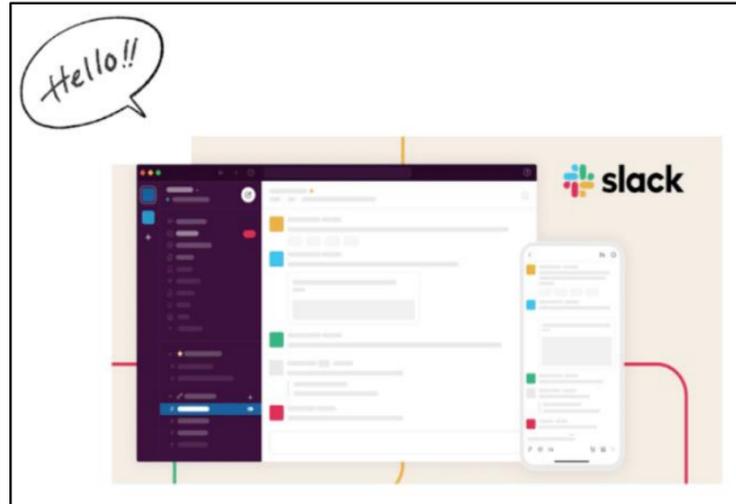
## 清水雄樹

グループマネージャー兼  
事業部施策チームのリーダー。  
AWS, Azureを含む  
マルチクラウド案件に従事



# オフラインセッションの振り返り

## ツールのご紹介 - できること



IAMユーザの  
作成・削除

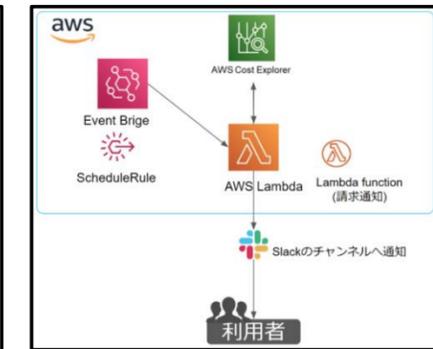
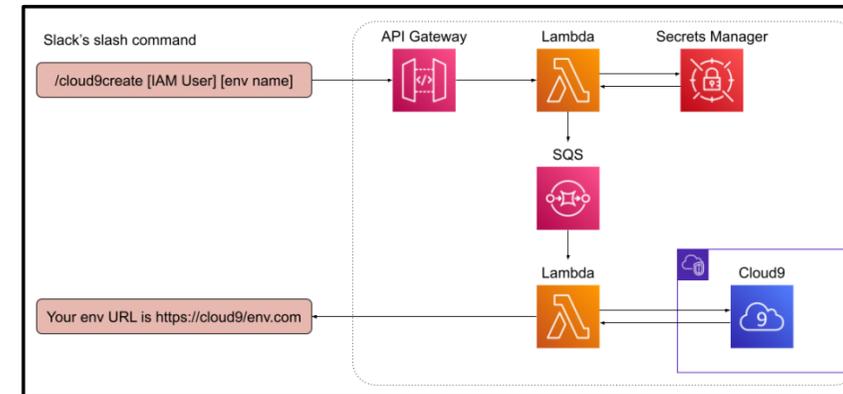
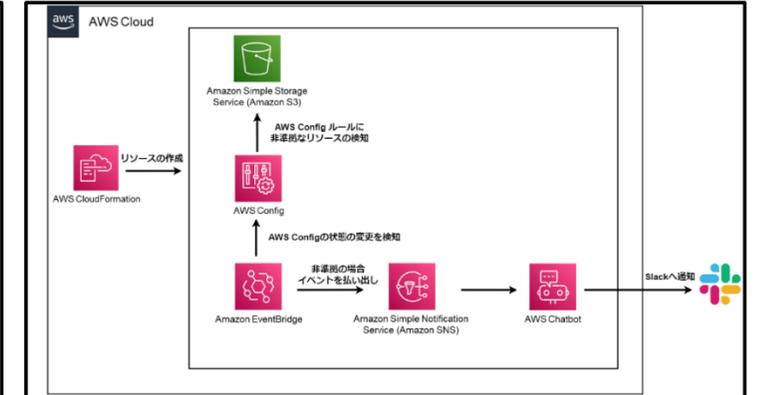
AWS  
アカウント  
作成

Cloud9の  
環境構築

Slack上で  
各サービス毎  
の請求通知

パブリック公開  
S3バケットの  
検知

## ツールのご紹介 - もう少し詳しく



AWS CloudShell  
AWS CloudFormation  
を使ってデプロイ

## オフラインセッションの振り返り

### ツール開発者について



- Mgr
- 当時4案件ぐらい掛け持ち
- 過去にAWS案件へ  
メンバーとして関わりあり



- メンバー
- 案件に加え、  
社内施策への関り
- AWS(クラウド)との  
関わりなし



- メンバー
- メインの案件に加え  
他業務と掛け持ち
- 過去~当方で  
AWS案件への関わりあり



- メンバー
- メインの案件に加え  
他案件との掛け持ち
- 昔にAWS案件で  
関わりあり

## オフラインセッションの振り返り

### ツールが完成にいたるまで



#### 自動化ツール

### 作成・開発の期間

期間：3~4ヶ月

実稼働：1ヶ月（4名で）

#### 自動化ツール

### 作業の進捗・内訳

~25%:

情シスへのヒアリングや調査、LP  
デザイン・広報への問い合わせ、設計

~50%:

開発、Lambda関数でのコーディング、検証

~75%:

Slack 連携検証、CloudFormationテンプレート  
の作成、ドキュメントなどの作成

~100%:

内部レビュー、公開

## ウェビナーのお土産

ウェビナー実施後の集客率を高めたかったのが一番の狙い。  
AWS導入支援サービスという後発のモデルにどの程度  
参入できるのか確度をたしかめたかった。

## 収益の柱を増やす

新たな収益源としてAWS案件を増やして  
時代の変化に強い事業部にする狙いがあった。

### 狙い

- ・ AWS案件を増やす
- ・ パートナーランクの向上
- ・ 採用人数の増加



## 2023年の成果



2023年3月にセレクトティアに、同年12月にアドバンスドティアになった



登壇、ブログ投稿をメインの活動として有志でのチームを発足した。



弊社上層部への関心が高まり複数人での参加稟議がおりるようになった

## 開発で苦労したこと

# SlackAPI3秒問題

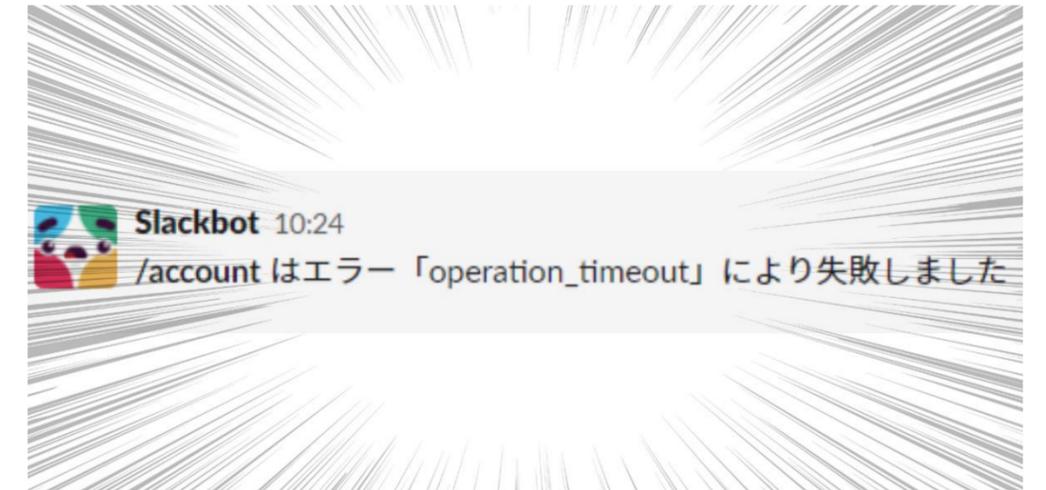
Slack API は3秒以内にレスポンスを返さないと失敗扱いになります。

その対処の為に「実行処理」と「それをキックする処理」を分けて開発しました。

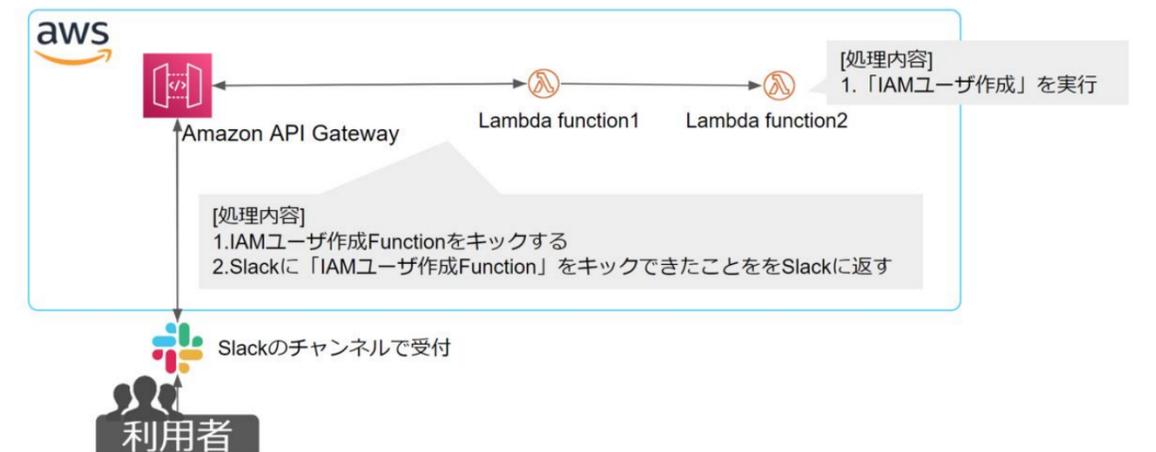
### ▼改修前



### ▼エラーメッセージ



### ▼改修後



## 開発で苦労したこと

# EventBridge のdetail-typeの設定

EventBridgeの検知区分があることを知らず  
中々対象のAPI実行履歴を検出できなかった

## 事象

AWS アカウントの作成をSlack上でできるツールを開発したのですが  
AWSアカウントは即時で作られるものではないので  
作成通知用にCloudTrailでAPIの履歴を見に行くEventBrdigeの設定をしました。

```
{
  "source": ["aws.organizations"],
  "detail-type": ["AWS API Call via CloudTrail"],
  "detail": {
    "eventName": ["CreateAccountResult"],
  }
}
```

## 原因

「CreateAccountResult」の発行元は「**AWS API Call via CloudTrail**」ではなく  
「**AWS Service Event via CloudTrail**」である為

## 解決策

detail-typeを「**AWS API Call via CloudTrail**」から「**AWS Service Event via CloudTrail**」に変える。

```
{
  "source": ["aws.organizations"],
  "detail-type": ["AWS Service Event via CloudTrail"],
  "detail": {
    "eventName": ["CreateAccountResult"],
  }
}
```

どうやら以下5つの区分があってそれぞれの用途があるようです。

- \* 「AWS API Call : API が呼び出された時の検知に用いる」
- \* 「AwsServiceEvent : リソースが呼び出された時の検知に用いる」
- \* 「AwsConsoleAction : API 呼び出しではないアクションがコンソールで実行された時の検知に用いる」
- \* 「AwsConsoleSignIn : コンソールサインインした時の検知に用いる」
- \* 「AwsCloudTrailInsight : 異常検知をした時の検知に用いる」

## 開発で苦労したこと

# AWSアカウント 削除できない問題

AWSの30日間で閉鎖できるメンバーアカウントは10%のみである仕様を知らず

AWSアカウント発行ツール検証で大量のアカウント作っていた。

去年開発のゴミを削除する作業を未だに月初にやっている。

## やったこと

複数アカウントを削除すべく「aws organizations close-account」をループ実施。

```
account_id = <id1> <id2> <id3> ...
for account_id in;do
  aws organizations close-account --account-id $account_id --region us-east-1
done
```

以下エラーメッセージが出力

```
An error occurred (ConstraintViolationException) when calling the CloseAccount operation: You have exceeded close account quota for the past 30 days.
```

ブログ投稿



市場調査と  
データ分析

## 今後の施策チームで実施すること

基盤にこだわらずブログ本数/登壇者を増やし市場認知を獲得する



イベント登壇活動

